

伊勢神宮 内宮参集殿 奉納舞 奉納演奏

◆日時 平成二十九年四月二十二日(土)午後一時半開始

◆会場 伊勢神宮 内宮参集殿 奉納舞台

一、地歌舞

かぐらぞめ
神楽初

立方 山村若女

地方 三絃 菊央雄司 箏 菊珠三奈子

山村流地歌舞は江戸時代に創流、大坂の豪商達の新しい独自の舞芸術として完成された。神楽初は題名の通り神楽の起源を詠った曲で、いわゆる天照大神の『岩戸隠れ』の神話を題材にした作品。神楽の心事では、鈴と五色の房の付いた榊を手に持ち、足拍子と旋回を基調にした古風な神楽の舞を表現。大坂十二曲の一つとされる古曲で格調高いご祝儀物。

一、長唄演奏 嶋の千歳

しま せんざい
唄 今藤政之祐

三味線 今藤長三郎 今藤和歌美

小鼓 望月太明十郎

長唄は江戸時代より歌舞伎音楽として栄え、やがて歌舞伎を離れた演奏中心の名曲が誕生。離子方七世望月太左衛門の襲名曲として作曲された長唄と小鼓一調で演奏される望月流の秘曲、祝賀曲。年代 明治三七年 作詞 大槻如電 作曲 五世 杵屋勘五郎

一、地歌舞 石橋

しやつきょう

立方 山村若女 山村若瑞

地方 三絃 菊央雄司 箏 菊珠三奈子

石橋は、中国天台山にあった石の橋で、千丈以上もある深い谷に岩と岩が繋がって自然にできた橋に由来する、文殊菩薩の使いとされる獅子を出現させ、咲き乱れる牡丹の花の中を勇ましく舞い戯れ、天下泰平・千秋万歳を祈って舞い納める。山村流では、親子の番(つがい)獅子が舞い戯れる様子を表現した、荘重かつ格調高いご祝儀もの。